

大阪女学院短期大学 2008 年度事業報告書

(2008 年 4 月 1 日から 2009 年 3 月 31 日まで)

学校法人大阪女学院

2009 年 5 月 26 日

I. 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

1. 新入生オリエンテーション

オリエンテーションは、建学の精神や教育理念、教育目的・教育目標、カリキュラムについて一定の理解をした上で、4年間の学習のスタートができるよう、導入教育としての重要な役割を担っている。2008年4月4日(金)から12日(土)までの期間実施した。

その内、宿泊を伴うオーバーナイトオリエンテーションは「壽楼 臨水亭」(神戸市須磨区)での一泊二日(2008年4月7日(月)から8日(火))のプログラムである。BS(ビッグシスター)がグループ毎について、下記のように入学後の教育課程と進路を見据えて考えるプログラムとして進められた。

オーバーナイトオリエンテーションの主なプログラム

セッションⅠ「ここでどう学ぶか」

セッションⅡ「Passport to English」

セッションⅢ「これは常識だ！」

セッションⅣ「ビッグシスター・アワー」

セッションⅤ「学びの自己点検」

セッションⅥ「まとめ／1年後の自分への手紙／アンケート」

2. 導入教育科目「学ぶこと、働くこと」について

世界的な規模で、社会を形成する価値の相対化が進んでいる。「学ぶこと、働くこと」は、たとえば、その只中にいる学生が、大学で学ぶ意義をどう見出せるのかをともに考える1年次全員必修の授業科目である。導入教育を担う科目として位置付けている。月曜日の5・6限目に授業を受け、考察を進めて、年度末に「大学で学ぶということ」をテーマに自らサブテーマを決めて各自が2400字の小論文にまとめる課題に学生全員が取り組んでいる。

3. キリスト教教育

キリスト教教育は、必須科目「キリスト教学」、選択科目「キリスト教と世界」及び、礼拝、リトリート等の行事を軸としている。2008年度の卒業生アンケートによると、「キリスト教関係のプログラムは、あなたの成長にどのような影響を与えましたか。」との問いに、28.9%が「影響があった」と回答している。また、「本学の理念が自分自身の成長に影響を与えたと思いますか。」との問いには、54.4%が「影響があった」と回答している。このことから、キリスト教に基づく教育理念をさらに学生へ浸透させる努力が必要であると考えられる。

礼拝やキリスト教関係行事への参加者数は、2008年度も前年度に比して改善がみられたわけではない。キリスト教教育委員会では、学生への呼びかけやプログラムの見直しを強める努力を行っている。

2007年度に引き続き、今年度の礼拝に100回以上出席した学生を対象に、顕彰をおこなった。今年度の該当者は、2年生1名、1年生6名であった。

4. 人権教育

人権教育講座を10月20日(月)～10月23日(木)に開催した。オープニングプログラム、2日間の分科会、全体会の4日間にわたって二年制、四年制の共同で行なう講座である。

2008年度も1・2年次を対象として開講する14のテーマ別の各分科会とも学生の満足度が比較的高い結果となった。しかし、両学年を併せて完全出席者が89名(30.8%)に止まっていることは今後の課題である。

5. 学期末レビュー

1学期間の学習を経た学期末に、新入生ひとり一人が自ら、当該学期間の学習の意味を振り返り、次の学習に向かう姿勢を得ることを目的として、1年時の学期末、定期試験の最終日に実施しているプログラムである。

参加した学生は、熱心に取り組み、それぞれに貴重な気づきを得ているが、春学期、秋学期とも、出席学生数は全体の1/3程度にとどまっている。課題である。

春学期：8月5日(火)

プログラム：

「ふりかえり用紙」をもとに入学後春学期末までの学びと生活のふりかえりを行い、グループに分かれてわかちあいを行った。

秋学期：2月7日(土)

プログラム：

「学ぶこと働くこと」「大学の自己形成」の授業および自分の取り組みをふりかえりと春学期末にも行った「ふりかえり用紙」を用いた一年間の学びと生活のふりかえりを行った。加えて自分の「現在地」について気づきを得て、今後の目標について一人ひとりが考える機会を持った。

6. 講師オリエンテーション

英語科目と世界の言語担当の非常勤講師を招き専任講師とともに、2008年4月1日(火)にオリエンテーションを開催。各科目のリエゾンより授業の概要、目的、到達目標、評価方法など科目全般について説明を行なった。

II. 教育の内容

1. 開講科目・クラス数

学生がより多様な選択ができるよう科目を設定し、コースや「履修推奨」などの履修モデルを提示している。2008年度の開講科目数は、164科目である。

さらに下表のとおり、開講クラス数の総数は445クラスとなる。内384クラス(86.3%)が30人以下で実施されている。また、20人以下のクラスも193クラス(43.3%)で実施されている。

また、100名以上のクラスは1学年全員で受講する必修科目であり、その授業展開はグループ別学習や個人面談を組入れた工夫をしているものである。

受講者数	クラス数
1～10名	89
11～20名	104
21～30名	191
31～40名	40
41～50名	11
51～60名	5
61～70名	1
71～80名	1
81～90名	1
100名以上	2
計	445

四年制との共通科目は、四年制受講者数を含む

2. 履修指導と関係規程の整備

卒業延期となっている学生は、42名である。決して少数とはいえない状況であり、改善の努力を続けている。

たとえば、再試験対象者や、春学期から秋学期にかけて継続性をもって担当している授業科目において春学期の成績が60点にわずかに満たないためIncomplete(保留)となった学生に、個別に教務面談を実施した。秋学期の学習が実りあるものとするための取組である。

また、新入生とさまざまな理由で学習への取組に難渋している学生を支援するために2007年度より設けられたキャンパスライフコーディネータと事務局教育企画・推進部が協力して、欠席が続く学生への指導等を組織的に進めている。いまだ完全とはいえないが、徐々にキャンパスライフコーディネータや事務局教育企画・推進部に履修等の相談に来る学生数が増え、当該の学生一人ひとりとコミュニケーションをとりつつ、学習の継続のために支援できる態勢が整いつつある。

III. 教育の実施体制

1. 教員組織

2008年度の二年制教員組織は、以下のとおりである。

教授	6名 (2名)
准教授	3名 (2名)
専任講師	3名 (1名)
兼任講師	119名 (22名)

()内は外国人教員

2. 教育組織

教育組織は四年制と統一した体制をとり、Academic Coordinatorの下、Liaison, Team Leaderが各群・科目・クラス間の授業展開、学生指導、成績評価などの調整をおこない、教育の質の維持・向上を図っている。

1) Academic Coordinator 智原

2) Liaison

1 年次英語必修科目

Core Studies I	Johnston
Core Studies II	稲田
Core Studies III	verity
Phonetics	米田
Grammar	寺

2 年次英語必修科目

Topic Studies I	Swenson
Topic Studies II	加藤
Topic Studies III	Fujimoto

語学基本群

Computer Assisted Composition	Johnston
Computer Assisted Reading	稲田
Reading Practicum	加藤
Academic Listening I	verity
Academic Listening II	verity
Public Speaking	verity
Debate	Swenson
Academic Vocabulary I	Fujimoto
Academic Vocabulary II	Fujimoto
Oral Interpretation	米田

3) Team Leader

a1 稲田
b1 McCarty
c1 肴倉
c2 山田
d1 Fujimoto
d2 Cline

IV. 教育目標の達成度と教育の効果

1. 授業の開講状況と学生の出席率

2008 年度の開講前クラスの開講予定回数に対して、実際の実施回数は 96.8%であり、昨年度とほぼ同等であった。

また、全学生の授業への出席率の平均は 83.7%であり、昨年度(86.8%)に比べて若干の低下がみられた。

2. 図書館の利用

学生個々人の学習姿勢の傾向を示す、個別学習に資する図書館での 1 人あたりの年間平均貸出冊数は、36 冊であった。昨年の平均冊数(31.6 冊)を上回わり、ここしばらく続いていた減少傾向が止まり、ほぼ 2006 年度の水準に戻った。これを日本図書館協会発行の「図書館年鑑 2007」による、国立大 9.2 冊、公立大 10.9 冊、私立大 7.6 冊と比較すると本学学生の学習意欲を一定示していると考えられる。

3. 学外コンテストへの参加と受賞

1) 大阪市姉妹都市協会第 42 回英語スピーチコンテスト

日時:2008 年 9 月 23 日 (火・祝) 10:00~17:00

会場:大阪国際交流センター

出場者:山裾亜矢奈さん(1 年生)

2) 近畿私立短期大学連合会・大阪私立短期大学協会主催 第 52 回英語弁論大会

日時:2008 年 12 月 6 日(土) 13:00~17:00

会場:京都女子大学短期大学部

出場者:坂口紗希さん(1 年生)

V. 学生支援

1. 入学者の受け入れ

2009年度春の入学者数は137名であった。入学定員150名を下回る入学者数の減少である。世界的な不況および、短期大学への進学意識低下など、本短期大学を取り巻く状況は非常に厳しいが、定員確保をめざして、推薦時期での入学者確保に力を入れ、次年度学生募集状況の改善に向けたアクションプランを実質化すべく取組を始めている。

大学と短期大学合わせて、2009年度の資料請求者数はほぼ前年度と比較し、約7%増加した。オープンキャンパス参加者数は前年度と比較して約30%増加した。

広報活動状況

1) 新聞広告掲出

掲載日	新聞社	掲載状況	記事内容
2008.4.11(金)	読売	見開き全三段(上段は大学開放が掲載)	「ユーアフレッシュの翼」になる。(オープンキャンパス日程案内)
2008.11.30(日)	読売	見開き全面(中・高・短・大・院)	英語で行動する女性を育むウエルミナ精神 125年
2009.2.13(金)	産経 毎日	全三段	後期 AO 入試案内
2009.2.14(土)	読売		
2009.3.15(土)	読売	見開き全三段(上段は大学開放が掲載)	後期 AO 入試案内、大学院開設案内

ほか、連合広告数回掲出

2) 入試説明会

・進学相談会

受験生との接触の機会をできるだけ多くもつことを目標として実施している(2009年度 88 高等学校(うち模擬授業 12 回)、51 会場で開催。アドミッションセンターのほか、他部署スタッフも協力し、本学の教育内容を直接説明し、理解してもらうことに意を用いている。

・高校進路指導担当者、英語担当者への説明会

本学の教育内容を明確に伝達するための機会として、本学において実際授業を見学することに加えて、場所を変えて教育内容や方法を紹介する説明会を開催した。

<2009 年度入試実績>

会場名	開催日	出席数	主なプログラム内容
スイスホテル南海大阪	6月27日(金)	13名	公開授業 カリキュラムの特色紹介 教養教育の紹介、キャリア支援の紹介 進路実績の紹介、学生募集について
ヒルトン大阪	7月1日(火)	20名	
スイスホテル南海大阪	7月2日(水)	36名	
ホテル京阪京橋	7月4日(金)	19名	

3) 高校訪問

近畿圏内の高校および受験実績のある圏外の高校を中心に、スタッフ (Teaching Staff と Management Staff) で担当校を設定して訪問した。訪問目的は、在学生の近況報告、直近の入試案内。2008 年度訪問校は延べ 250 高等学校。

今後の課題でもあるが、効果的な訪問展開を実施するため、地域別・高等学校進路指導別の訪問校および訪問時期の分類が必要である。

2. 事前学習

入試合格者には、入学後、本学での学習への取り組みをスムーズにするため、オリジナル教材 (CD) 等と課題図書を送付している。

3. 学習支援

1) 学習支援センター

学習支援センター「SASSC」の利用を見ると、コンスタントに学生が活用している。English Native Speaker が担当する Writing Center の利用者は、春学期 134 件 (前年 181 件)、秋学期 59 件 (前年 111 件)。また、本学卒業生が月曜日から金曜日まで担当している Tutoring は、春学期 64 件に比べて秋学期 53 件と秋学期若干利用者が減少している。これは、その学年の学習内容に一定理解が示され慣れてきたこともその一つの要因と考えられる。今後より活用されるよう学科目の担当教員と連携しその誘導を促すなど工夫し実施しているところである。

Writing Center

	春学期		秋学期	
月曜日	17:00-20:00	P. Meyers	17:00-20:00	M. Aljets
火曜日	17:00-20:00	J. Anderson	17:00-20:00	J. Anderson
水曜日	17:00-20:00	M. Aljets	17:00-20:00	D. Friedrich
木曜日	17:00-20:00	C. Hagerman	17:00-20:00	C. Hagerman
金曜日	17:00-20:00	M. Aljets	17:00-20:00	M. Aljets
土曜日	13:30-16:00	D. Friedrich	13:30-16:00	D. Friedrich

Tutoring

	春学期		秋学期	
月曜日	16:00-20:00	武笠露乃	16:00-20:00	武笠露乃
火曜日	16:00-20:00	山本尚子	16:00-20:00	山本尚子
水曜日	16:00-20:00	榊祐実	16:00-20:00	榊祐実
金曜日	16:00-20:00	武笠露乃	16:00-20:00	田仲由実

5. 学生生活支援

1) 学友会活動支援

学友会活動について学生サポート企画・推進部は「助言と協力」を基本姿勢に、学友会活動に関するオリエンテーションを実施した。2007年度の活動方針を確認し、年間の活動計画として大学祭行事やアルバム撮影、カレッジリングなどのイベント企画の構成などに関わった。

また、執行部員の勧誘から毎月の学友会と定例会を行い、日々の活動を把握しながら、リーダーシップの育成に努めた。年度末には1年間の活動のふりかえりを行い、新執行部への引継ぎを行った。

2) 学友会活動と状況

執行部の学生構成は、大学2年生12名、大学1年生12名、短期大学2年生9名、短期大学1年生5名と40名近くの組織になった。人数が多いことにより、少人数に業務が集中することがなかった利点の半面、組織作りとマネージメントが求められることとなり苦心する場面も見受けられたが、役割分担を明確にしてグループリーダーを設けるなど試行錯誤しながらの活動であった。七夕とハロウィンにはイベントを実施したが、学生が参加しやすい工夫がなされて盛況であった。学友会執行部での日常業務に追われて新しい企画や取り組みに着手できないのが最近の傾向のようである。

3) 大学祭について

学友会執行部が主催する大学祭は、「シンデレラマジック」と題して行われた。

大阪教育大付属池田小学校での殺傷事件以降、一般公開をしておらず、それにより参加者や入場者の減少がここ数年の問題となっていた。中高が土曜日に授業がないことと、警備体制の改善を行い、今回は一般公開を行った。それによる急激な状況の変化はなかったが、地域の住民や学生の友人や家族がより参加しやすい環境となった。大量に発生する資源ゴミを減らすためのエコプロジェクトとして、リユース食器を導入して模擬店を催すなど、単なる楽しみだけで終わらないイベントづくりを行った。大学スタッフが模擬店を出店したりするなど活性化に協力をした。

4) 課外活動

今年度に活動しているクラブ・同好会は以下のとおりである。

名称	部員数	活動回数
ダンス部	1(19)	182
ゴスペル部	1(9)	89
Amigos de Apple 部	0(12)	2
フォークソング部	5(10)	212
空手部	0(6)	14
合気道部	1(3)	2
バレーボール部	1(15)	20
茶華道部	2(17)	21
バスケットボール部	—(—)	—
野球部	0(6)	21
お洒落部	1(4)	4
アルトス部	0(4)	—
チアリーディング部	1(11)	155
バトミントン部	0(9)	17
ボランティア部	4(12)	20
美術部	0(3)	2

テニス部	0(7)	—
フットサル部	0(7)	19
沖縄同好会(ニライカナイ)	8(9)	—
アフリカ研究同好会(CUA)	1(9)	8
KOREAN 舞同好会	1(3)	25
フェアトレード同好会(PEACE)	4(17)	6
写真同好会(青いレンズの会)	4(16)	6
地球技同好会	0(14)	15
ブラスバンド同好会	2(10)	78

表中、()内の数字は併設大学の学生との合計人数

「—」の表記は、活動報告のないケース

5) 奨学金受給状況

奨学金募集にあたっては、春学期は4月26日、秋学期は10月1日に説明会を実施し、本学の奨学生採用に関する基本的方針を伝えた後、応募方法について説明をした。生活サポート委員会を開催し、選考において決定した。2008年度、新たに採用された奨学生者数は以下のとおりである。

また、2008年度卒業生対象に奨学金返還の説明会を11月25日と11月28日の両日に実施した。

	有資格者	採用数
予約奨学生(日本学生支援機構)	—	40名
定期採用(日本学生支援機構)第一種	10名	10名
定期採用(日本学生支援機構)第二種	23名	20名
定期採用(学内貸与奨学金)	23名	7名
定期採用(学内支給奨学金)	9名	1名
その他の奨学金	—	1名

6. 進路支援(キャリアサポートセンター)

1) 活動の概要

2008年度の採用環境は「超売り手市場」の楽観ムードの中でスタートしたが、世界同時不況による企業の経営環境悪化により、夏以降は状況が激変し、8月以後の求人件数は前年比53.8%に落ち込んだ。

秋以降の厳しい就職環境の中で、教職課程履修者、大学編入学予定から就職に進路変更した学生などにとってはことさら厳しい就職活動を強いられる結果になった。

2) 具体的な取組

a. 職業意識醸成とキャリア形成支援のために(大学1・2学年生、短大1年生対象)

① しごとセミナー

将来の仕事についての認識を高めさせるため、エアライン業界、公務員、国際貢献などの仕事紹介と、それらの職業に就くためにどのような準備が必要か・・・をテーマとしたセミナーを6月～11月にわたって6回実施した。

b. 就職ガイダンス(1年生対象)

10月～翌年2月、短期大学1年生を対象として就職ガイダンスを12回シリーズで開催した。就職ガイダンスは以下のポイントに重点をおき、主として当センターのスタッフがインストラクターとなって実施した。

<就職指導のポイント>

- ① 企業から選ばれると同時に、こちらも企業を選ぶ視線をもつこと。
- ② 女性が長く働き続けることができる制度と文化をもつ企業を選ぶこと。
- ③ 学生一人ひとりの主体性を尊重する。

c. 卒業生のキャリアアップ支援(卒業生対象)

2006年度から取り組んでいる卒業生支援プロジェクトは、当センターウェブサイト以外で一切 PR 活動は行っていないが、毎月1-2名のペースで短大卒業生が転職相談に来所している。再就職が成功している事例もあるが、事情を聞いた結果、現職にとどまることを薦めるケースも多く、卒業生にとっては企業内で相談できないことを大学に持ち込み、結果として長期勤続につながることになれば、所期の目的以上の成果として評価できる。

3) 2008年度卒業生の就職状況

就職希望者の4月末現在の就職決定率は96.6%で前年同期並みの成果を上げることができた。秋以降の逆風の中で期待以上の結果を出せたことは、日頃からの、きめ細やかなカウンセリングの賜物である。

金融業界を中心として、一般事務職採用の四大生へのシフトが進行する中で、企業が求める採用要件が高くなる一方、短大生の間力低下(=学力低下)という逆比例現象が強まっており、不況下での短大生の就職環境は一層厳しくなることが予想される。

7. 編入学状況

今年度の編入学合格者数 22 名、入学者数 21 名であった。昨年度合格者数 21 名、入学者数 18 名とほぼ同じ結果となった。

大学	学部	合格	入学	(内指定校)
大阪府立大学	人間社会学部	1	1	
大阪女学院大学	国際・英語学部	4	4	
関西外国語大学	外国語学部	1	1	
関西学院大学	法学部	1	1	
	社会学部	1	1	1
	総合政策学部	6	4	3
京都文教大学	人間学部	1	1	
京都外国語大学	外国語学部	1	1	
近畿大学	経営学部	1	1	
神戸親和女子大学	総合文化学部	1	1	
平安女学院大学	国際観光学部	1	1	1
立命館大学	国際関係学部	1	1	
	産業社会学部	1	1	
龍谷大学	社会学部	1		
合計		22	19	5

VI. 研究

1. 研究活動委員会活動報告

1) 紀要発行

『大阪女学院短期大学紀要』第 38 号(2009 年3月1日発行)
(執筆者:専任教員 4 名)

2) 研究会の実施

専任教員による下記の学内研究会を実施した。

外部講師を招いての研究会

実施日:2009 年 1 月 28 日(水) 16:00~18:00

場 所:本学 会議室 I

対 象: 大学・短期大学 専任教職員

(内 容)

題 目:21 世紀の国連 還暦を過ぎた国連の新しい方向

講 師:位田隆一氏(京都大学公共大学院 教授)

対 象: 大学・短期大学 専任教職員

学内講師による研究会

実施日:2009 年 2 月 25 日(水)13:00~15:00

場 所:本学 会議室 I

対 象: 大学・短期大学 専任教職員

(内 容)

題 目:Graduation Project:国際マネジメント・コースにおける教育目的

講 師:大学准教授 長井茂

題 目:Writing Centers in Japan with a focus on OJC's writing center

講 師:大学教授 Scott Johnston

題 目:カンボジアにおける人身売買禁止法 (Anti-Trafficking Act in Cambodia)

講 師:大学教授 香川孝三

3) 学術振興の支援活動

学術振興の支援活動として、下記の学会開催の会場校を引き受けた。

日本ジェンダー学会

開催日時: 2008 年 9 月 15 日(月)9:30~17:30

2. 専任教員の研究活動

- 1) 専任教員の自己申請により、『紀要』巻末には当該年の研究活動歴が個人別に[I.著訳書、II. 学術論文、III.その他の著作(報告、雑誌、新聞等)IV.学会発表、V.その他の発表(シンポジウ

ム、講演、放送等)、VI.学会および公的な機関の委員、VII.科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究]順に報告されている。

2) 教員の研究業績は、ホームページ上に公開している。

3. 学会および公的機関の委員

本学ティーチングスタッフが担っている学外での主な役割は以下のとおりである。

Fujimoto, Donna

(1) SIETAR (Society for Intercultural Education, Training and Research) Kansai Branch, Program Chair, 2008年1月～12月

(2) TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages) Intercultural Communication Interest Section, Immediate Past Chair, 2008年1月～12月

(3) Contrast Culture Method Special Interest Group, Coordinator, 2008年1月～12月

McCarty, Steve

(1) World Association for Online Education, 名誉会長(1998-2007:会長) 2007-現在に至る

(2) Asia-Pacific Association for Computer-Assisted Language Learning, 広報委員 2007-現在に至る

(3) ベネッセ コーポレーション 東京本社 Worldwide Kids English, メーン監修 2006-現在に至る

(4) チャイルド・リサーチ・ネット(東京), Advisory Board(顧問) 2001-現在に至る

中井 弘一

(1) 文部科学省SELHi企画運営協力委員会 協力委員 2006～

(2) 大阪府立寝屋川高等学校SELHi運営指導委員会 運営指導委員 2006～

関根 聡

(1) 東大阪市社会福祉協議会:福祉と人権 推進委員会 オブザーバー 2005年11月～

(2) 高槻市男女共同参画審議会 委員 2006年10月～2008年10月

(3) 高槻市男女共同参画センター:男性セミナー企画運営委員会 委員長 2008年4月～2009年3月

(4) 学校法人池田五月山教会学園 評議員 2008年4月～2012年3月

Verity, Deryn(ベリティ・デリン)[English, ELT]

(1) Japan Association for Language Teaching, Editorial Board member, reader, reviewer, all year 2008

山田 一美

日本第二言語習得学会 会計監査委員 2008年～2009年

4. 研究費の利用状況

大阪女学院短期大学に勤務する専任教育職員の研究活動を助成するために、各個人の研究活動を助成するための個人研究費と、特定の課題について共同して行う研究を助成する共同研究費を設定している。

個人研究費は、専任教員に対して年間50万円(旅費:20万円、旅費以外:30万円)、特任講師に対して年間20万円(内訳の設定なし)を限度に支給される。共同研究費について

ては、審査を経て採否と金額が決定される。

2008 年度は、個人研究費のみが下記のとおり使用されており、使用に係る傾向は 2007 年度とほぼ同等と言える。

予 算 :	740 万円	
使用総額:	444 万円 (執行率 60.0%)	
内 訳	消耗品費	209 万円 (47%)
	旅費・参加費	143 万円 (32%) …うち海外旅費は 83 万円
	機器備品費	40 万円 (9%)
	諸会費	39 万円 (9%)
	その他	13 万円 (3%)

VII. 社会的活動

1. 高大連携

2008 年度高大連携活動は 7 件 6 校で実施した。

プログラム

模擬授業	3 件
進路説明、講話	2 件
異文化理解	2 件

連携プログラム実施校

大阪府立高校	3 校
大阪私立高校	2 校
大阪女学院高校	2 件

VIII. 管理運営

1. 組織編成

本学の教授会は、2004年度以来、学校教育法施行規則第66条の二に基づいて、教授会規程及び関係規程を定めた上で、今年度は新しい組織体制を導入して、教育研究および運営に関わる事項について審議している。

また、本学は二年制・四年制を一体の組織と考え、所属や担当科目の如何にかかわらず、それぞれの事業計画や課題への取組みについて共に検討する場としている。

今年度は、校務に関する諸事項を4つの本部で分担し〈注1〉、各委員会の活動を取りまとめた。さらに、この4本部を統括する役割を担うディレクターボード(以下、DB)〈注2〉を設定した。DBで基本となる考え方や方針を整理の上、本部共通会議〈注3〉あるいは教授会で審議・決定を行った。

〈注1〉 教学推進本部、学生サポート推進本部、重点分野推進本部、運営管理本部

〈注2〉 構成する人員は以下のとおり

学長、学長代行、副学長(運営担当)、正副本部長、ALO、CLC、計14名

〈注3〉 出席者は、上記 DB メンバーと各委員会の正副委員長を中心に、学長が指名する者が出席している。人員数は計37名

2. 危機管理

1) ID カード

学院敷地内の安全を担保するために学院全体でスタッフの ID カードの携行を始めた。大学においては、職員の携行が定着しているが、兼任講師の勤務形態が中学・高校のそれとは異なり馴染みにくいこともあり、教員(専任・兼任を問わず)への徹底が不十分である。また、学生を識別する有効な手段はなく、特に春の新学期は見分けが全くつかないことが未解決の課題である。

2) 安全避難訓練について

例年どおりの手順で災害緊急時(今回は本館2階のトイレ付近からの火災を想定)の避難経路を確認することを主に、安全避難訓練を実施し、グラウンドでの消火訓練では多くの学生が積極的に参加した。一年生は、アセンブリーの時間で出席者数を一定確保したが、授業がない3・4年生の参加が少なく全学挙げての実施とはならなかった。

避難訓練のあと、ホールチャペルにて講評をいただいた後、上町地震発生時を想定し、過去の実例を踏まえた具体的な対応措置について説明や質疑応答があり、学校内だけでなく通学途中の心がけなどについて意識が高まった。

3) 麻疹対応について

麻疹の流行時期に備え、女学院全体の施策の一環として、非常勤講師や派遣社員を含む教職員全員に関し、抗体検査の受診を要請し、各人から書面での報告を受け、教職員が病気の発信源とならない体制を整えた。また、学生に対しても、本件に関する注意を強く喚起するとともに、教職の実習予定者や海外渡航予定者などに対して、自主的に抗体検査を済ませておくよう勧奨した。

IX. 財務

1. 補助金の獲得

2008年度の、私立学校振興・共済事業団を通して得られた公的補助金の獲得額は63,661千円であり、給付対象校334短期大学のうち180位である。(学生数等の規模による調整のない順位)

内、事業計画の申請や特色GPなど競争的配分による補助金である「特別補助」の比率は14.8%となり、2007年度とほぼ同じ水準となった。入学者数の減少に加え、類似した専門領域とカリキュラム構成の併設大学と同時に、事業計画の申請や競争的資源配分を受けるための申請の困難さも要因になっている。引き続き本学の中・長期の事業計画・財務計画を考える上での重要なテーマの一つと考えられる。

補助金獲得状況

(単位:千円)

年度	順位/ 給付対象数	私立大学等経常費補助金		私立大学 教育研究 高度化推進 特別補助	合計	競争的資金の比率	
		一般補助	特別補助				
2008	180/334	54,240	9,421		63,661	9,421	14.8%
2007	197/345	56,169	9,544		65,713	9,544	14.5%
2006	146/351	60,089	4,405	12,507	77,001	16,912	22.0%
2005	75/364	96,737	5,000	14,500	116,237	19,500	16.8%
2004	88/376	86,525	3,000	20,743	110,268	23,743	21.5%

* 従来の「高度化推進特別補助」は、2007年度から「経常費補助金特別補助」に統合された。

2008年度に本学が申請した事業は以下のとおりである。

1) 教育・学習方法等改善支援経費

- a. 図書館等情報系施設の開館時間の延長
- b. 教室内外にわたる授業設計と個別学習指導により単位当たりの学習の実質化を目指すデジタルネットワーク学習環境の整備
- c. 新入生オリエンテーション-モチベーションの明確化-
- d. 国際社会への理解と対応力の修得
- e. 人に関わることを自らの内にある生きる力に気づくりトリーとの取り組み
- f. 異なりを越えて共生を考える「人権教育講座」の取り組み

2. 財収改革

2008年度募金活動は昨年と同様、卒業生とその関係者を対象とした「ウキルミナ・サポート教育環境整備寄付金」と新入生保護者を対象とした「教育環境整備支援特別寄付金」の2寄付金募集を実施することを検討した。しかし、125周年記念募金運動との重複感がでないようするため、学院全体の募金活動の方針が確定するまで準備を停止したことや担当者の急病など種々の事項が重なった結果、昨年同様のまとまった事業展開ができなかった。

X. 改革・改善

1. FD・SD

本学の FD・SD は、学長及び Accreditation Liaison Officer のリーダーシップの下、企画運営される。事務組織においては学長室がその役割を担う。

2008 年度に実施した FD/SD は以下のとおりである。

日時： 2008 年 5 月 31 日 (水) 14:00-17:00

テーマ： 大学評価研究セミナー

「これからの大学評価」～評価実施機関の立場から～

講師： 荻上 紘一 氏

2. 各種調査

学長室が、各授業への満足度や各年次の学習生活・学生生活の状況を把握するために、年間を通して下記の調査を実施した。これらの集計結果は、前述の教育組織(各授業担当者及び担当委員会等)での検討資料としている。

1) 意識調査(4月)

新入生意識調査

2) 満足度調査(2月)

1 年生キャンパスライフ・アンケート、チュータリング・アンケート、ライティングセンター・アンケート、図書館利用調査、4 年修了時アンケート

3) 学生による授業評価

1 年次英語統合科目(6月、7月、11月2月)

英語必修科目、英語選択必修科目(2月)

専門展開群(2月)

3. 教育課程等の改善

四年制大学の第一次カリキュラム改訂と合わせて、短期大学 1 年次必修科目に、2008 年度から English Essentials, Grammar Essentials, 自己形成スキルの 3 学科目を加え、基礎的学力を養う改善を行った。